



地域情報視覚化のための 集合知マップシステム

名古屋工業大学 岩田 彰研究室 西本 昂平

研究目的: 地域コミュニティの活性化

現在、地域コミュニティにおける課題は教育、医療、防災と非常に多岐にわたっています。本研究ではそのような課題を解決するための一つの手段として集合知マップの開発に取り組んでいます。



本システムを使用することで、地域住民は緊急時用ハザードマップや観光地図などといった、各地域独自の地図を作り、インターネット上で共有することができます。

集合知とは

集合知とは、膨大な知識を分析したり体系化したりして、活用できる形にまとめたものです。

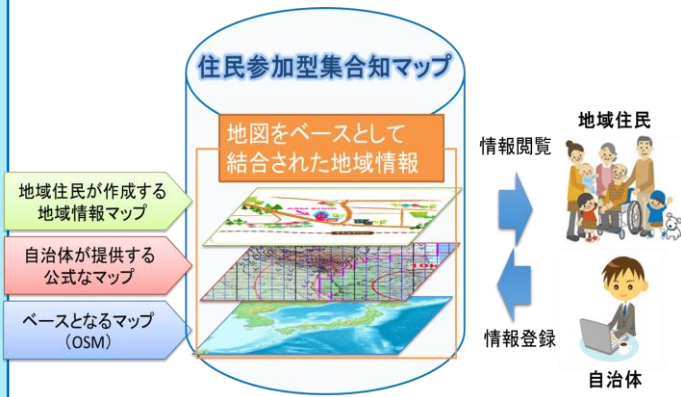
今回のケースでは？



普通の地図には記載されていないような情報を住民が地図に書き込むことで地域独自の地図を作成することが可能です。

システム構成図

ベースとなる地図(OSM)の上に自治体の提供する地図や、住民が作成する地図などをレイヤとして重ねて表示させることができます。



利用形態 本システムを利用することで、上記地域コミュニティの課題を多角的に解決することができます。

防災 ハザードマップ

- ・地域住民の防災意識向上
- ・災害時の情報共有



観光 観光地図

- ・地域ならではの観光マップ
- ・一般公開による地域振興



地域医療 バリアフリーマップ

- ・地域バリアフリーマップ
(段差、点字ブロックなど)

